



青葉山さんかく隊

NEWS LETTER vol.3

第2回ワークショップ「施設の使い方や過ごし方を考えよう！」



日時・会場

日時：2025年7月6日(日) 14:00～16:30

会場：仙臺緑彩館 交流体験ホール

プログラム

1. はじめに
2. 前回のふりかえり
3. 複合施設について
4. 他己紹介インタビュー
5. 話し合い「施設の使い方や過ごし方」
6. 発表
7. おわりに

仙台市では、青葉山エリアに音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の複合施設を新しく整備する計画を進めています。

本施設の設計プロジェクトの一環として、施設の使い方、過ごし方、やってみたいアイデアなどを考える全4回の市民ワークショップが「青葉山さんかく隊」です。

第2回目は40名が参加。複合施設のエリア構成や各エリアの機能などについての説明を踏まえ、7つのグループに分かれ、どのエリアでどんなことをやってみたいかについて、意見交換をしました。

複合施設について - 仙台市青葉山エリア複合施設整備室・防災環境都市推進室

この複合施設は、仙台市における文化芸術の総合拠点となる「音楽ホール」と、災害文化の創造拠点となる「中心部震災メモリアル拠点」から構成されます。音楽・演劇・ダンスなど、さまざまな文化芸術の鑑賞や活動ができる場であると同時に、災害に関する展示や催しを通じて、災害を乗り越える暮らし方を学び、考える場ともなります。

また、目的がなくても気軽に訪れることができ、ロビーや広場で自由に過ごせる開かれた施設を目指しています。さらに、東日本大震災が発生した3月11日には、さまざまな立場の人が集い、当時の出来事に思いを馳せ、特別な時間を共有できる場にしたいと考えています。

施設の構成	〈文化芸術〉音楽ホールの事業
それぞれのエリアは分断することなく、文化芸術と災害文化が出会い、融合するしつらえや配置が重要と考えています。	作品を創造・発信する／まちに賑わいを生む 文化芸術を社会にいかす／人材を育てる
ホールのエリア 2,000席規模の大ホール／約350席の小ホール 文化芸術のエリア リハーサル室／練習室／ワークショップスタジオ／こどものための空間など 災害文化のエリア 展示スペース／アーカイブライブラリー／市民研究活動スペースなど	〈災害文化〉中心部震災メモリアル拠点の事業
広場のエリア 交流ロビー／レストラン／クワイエットスペース／屋外広場など	災害を知る／災害文化を創る／ 災害文化を定着させる／災害文化を広める
	文化芸術・災害文化による連携事業の想定
	メモリアルコンサート／ 災害をテーマにした演劇の制作・上演／ アートワークショップによるコミュニティ創造（災害時の共助につながる関係づくり）／ 災害時の文化芸術活動を考える・伝える取り組みなど

▼ 災害文化とは

災害は発生するものであるという前提のもと、「災害に備える・被害を軽減させる」「災害から立ち上がる」「備えや軽減策を更新する」といった一連の流れが、個人・地域・社会に根づいている状態を、「災害文化」と呼んでいます。

そして、単に災害に備えるだけでなく、「どうすれば災害から立ち上がれるか」「知識や経験を次の災害にどう活かせるのか」を考え続け、かたちにしていくことが、災害文化の創造拠点としての役割であると考えています。

他己紹介インタビュー

今回は、参加者同士がより深くお互いを知ることがを目的に、「他己紹介インタビュー」を行いました。

ペアを組み、「出身地／仙台で暮らすことになったきっかけ」「生まれ変わるなら自分 or 自分以外？」「心をゆさぶられたアート・本・映画・音楽・漫画など」「文化芸術についてどう思うか」「災害文化についてどう思うか」といった5つの項目に沿って互いにインタビューをしました。インタビューした内容は、ペアごとにグループの他の参加者に向けて紹介し合いました。



話し合い「施設の使い方や過ごし方」

前回のワークショップで出た活動の意見をカードにしたものを、施設の構成を示すワークシートに配置しながら、施設のどのエリアでどんなことをやってみたいか、どんな施設になるとよいかについて話し合いました。



▼ 話し合いで出た意見(抜粋)

周囲からみえてもOK 〇〇

ワンルーム的な空間

▼ 本

- ・本や漫画を読む
- ・漫画をつくる
- ・防災・減災の絵本ギャラリー
- ・読書コミュニティ

▼ 教育

- ・親子それぞれのサマースクール

▼ 映画

- ・エリアに特化した映画にまつわる情報誌がある

▼ 食

- ・缶詰バー・備蓄こども食堂
- ・テラスでランチ
- ・サバイバル料理教室
- ・夜、音楽を聴きながら一杯のむ
- ・野点(お茶会)

▼ 過ごし方

- ・ゴロゴロする
- ・フリーの机や椅子
- ・ふかふかの椅子
- ・何もしなくてもいられる
- ・ポーっとする大会
- ・無音は居心地悪い

▼ 発信

- ・推し活(ファン市民による宣伝や解説、勉強会)
- ・施設のガイドツアー
- ・施設のコンシェルジュ
- ・スタンプラリー

▼ ものづくり

- ・汚してもいい場所(絵の具・音・刃物)
- ・作業コンシェルジュ
- ・ハンドメイド
- ・雑誌を使った工作

▼ ワークショップ

- ・ハザードマップ作成
- ・脱出ゲーム
- ・ロープワーク体験
- ・災害文化につながるオリジナルRPG
- ・避難所の運営をする実践型災害キャンプ

▼ 音楽など

- ・誰でもどこでも演奏会
- ・オーケストラの演奏でラジオ体操
- ・小さい子も行ける音楽会(泣いてもOKな会)
- ・ひらひらの上でハーブ

▼ 音楽など

- ・対話型の音楽ワークショップ
- ・国際コンクールの演者と交流
- ・指揮者体験
- ・合唱コンクール
- ・ステージでカラオケ
- ・道具(楽器)が使い放題の音楽スタジオ
- ・スタッフルームにも入れるバックヤードツアー
- ・おしゃれをしてホールでライブ

▼ 発表

- ・研究などが発表できる

▼ 展示

- ・アーカイブ+他の事例から学ぶ
- ・リアルタイムで世界の災害や防災の情報が分かる
- ・写真展
- ・常設のギャラリー
- ・防災グッズの展示があり、使うこともできる
- ・東北6県の文化などの展示(お祭りなど)
- ・沿岸部の“今”を現在進行形で体感できる時間・空間
- ・海外の先進的な災害文化の展示・体験

▼ 過ごし方

- ・コンサートの余韻にひたる
- ・1人で物思いにふける
- ・ぼんやり景色を眺める
- ・自然の音が聞こえる
- ・時間を忘れて過ごす

▼ 映画

- ・映画を観る
- ・少人数から楽しめるプロジェクターのある部屋

▼ 本

- ・朗読会

周囲の音がきこえてもOK

周囲の音がきこえない

▼ 音楽など

- ・楽器の自主練習
- ・ダンスの自主練習

▼ ワークショップ

- ・人生をきく会

▼ 若者:

- ・10代のたまり場
- ・学生のたまり場

▼ 運動

- ・筋トレ

▼ 音楽など

- ・自分の演奏を録音
- ・伝統芸能の発表の場
- ・国際的な災害・紛争関連の演劇イベントの開催

▼ その他

- ・スマホ禁止部屋

専用の空間

周囲からみえない

▼ 共通

- ・文化芸術と災害文化は分けなくてよいのでは
- ・お金がかからないでいろんな活動に参加できる
- ・忙しさがやわらぐ場になるといい

▼ 空間・計画

- ・光の部屋、森の部屋、星の部屋
- ・天然芝(人工芝)や畳、水に足を浸けれるなど、いろんなタイプの床がある
- ・災害文化を体験できる動線計画
- ・参道みたいなもの(ワクワク感を高める)や裏口(別ルートで建物を訪れたい)がある
- ・建物を眺める場所がある

▼ その他

- ・万博リングを移設して展望台のように使えないか

▼ 災害文化

- ・世界の災害のハブとなる
- ・つくられたものがあるわけではなく、いろんな人と一緒に災害文化について話していきたい
- ・海を感じるエリアがほしい
- ・災害時は避難所にも使える
- ・この施設を利用する人に、ここが震災を経験した土地であることを知ってほしい
- ・避難シミュレーション
- ・避難所で役割が固定化しないように、日常から孤立感をなくす活動をする楽しくなきゃダメ
- ・常日頃から周りに目を配ることが大事
- ・普段から準備しておくことが大事

屋外

▼ アウトドア

- ・アウトドア体験(アーティスティックにやってみたい)
- ・テラスの上で火を使えるようにできたら

▼ 食・畑

- ・何派か聞かない芋煮会
- ・食べられるものを育ててみんなで食べる
- ・土に触れられる

▼ エコ・防災

- ・井戸や湧水マップをつくる
- ・水のろ過実験をする
- ・雨水の活用

▼ メモリアル

- ・14:46に鐘を鳴らす

▼ まちあるき

- ・謎解きをしながらまちあるき

▼ 動物

- ・犬や猫と一緒に過ごせる

▼ 過ごし方

- ・芝生でゴロゴロする

サテライトオフィス通信

さんかく隊の参加者にも手伝ってもらい、第2回ワークショップで使用したワークシートを展示しました。キックオフイベントや第1回ワークショップで出た活動アイデアも引き続き展示しています。



開 所

月～金 10:00～19:00 ※祝日を除きます。会議等のためスタッフが不在にしていることもあります。

場 所

藤本壮介建築設計事務所 サテライトオフィス 住所：青葉区立町23-19 定禅寺ハイツ 1階

▼ 外観



▼ 地図

